

## 次号予告

### 特集 確率モデルとその周辺

待ち行列の点過程モデルと率保存則

……………宮沢政清(東京理科大学)

通信システムに現われる待ち行列モデル

—バースト入力について—……………高橋敬隆(NTT)

故障のある機械におけるスケジューリング問題

……………木島正明(筑波大学)

待ち行列の制御問題2題: 負荷分散と経路選択の

最適化をめざして……………大西匡光(京都大学)

人工知能における確率論の役割: 不確定要素を含む

知識表現とその推論……………住田潮(ロチェスター大学)

研究レポート: AHPにおけるコピーまがいの代替

案への現実的対処法……………刀根 薫(埼玉大学)

## オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長	高森 寛	青山学院大学
副委員長	高井 英造	三菱石油㈱
委員	相沢りえ子	㈱構造計画研究所
	上野 哲郎	関東学園大学
	大村 雄史	住友商事㈱
	片山 隆仁	防衛庁
	川合 庸一	川合産業研究事務所
	木嶋 恭一	東京工業大学
	新村 秀一	住商コンピューターサービス㈱
	町原 文明	日本電信電話㈱
	宮田 雅智	青山学院女子短期大学
	矢部 博	東京理科大学

**編集後記** ●CIM構築は、製造業にとって運命を賭けた試みです。生産全般とさらに開発部門および販売部門を統合化することは、とりもなおさず企業運営の機構をも再構築する大事業なのです。しかし、あえて企業がこのチャレンジをするのはCIMによるビジネス・スピードのアップの効果が製品開発力の強化や環境変化に強い企業を作り出すからです。日本はこのCIMにおいても先進的になりつつあります。今回の特集にあたっての中で黒田先生が書いておられるように日本特有の企業文化がそれを支えているのです。加えて、何もない所からアイデアを生み出すよりは、アイデアを暖めて実用化し発展させることが得意な日本人にとって、各種要素技術をインテグレートし1つのシステムとして完成させることは容易なことなのかもしれません。●日本企業の他の試みの1つとして、就業体制の変革があります。週休2日制の定着と労働時間の短縮化、フレックスタイム制導入等が挙げられますが、企業の効率化で得た余裕を個人に分配しようというものです。これは、経済大国日本の黒

字減らしとともに日本人のライフスタイルの変化に照準をあてた結果なのです。ところが、“24時間戦えますか”というコマーシャルフレーズがヒットし、その商品の売れ行きも良好であると聞きます。とすると、日本人は本質的には働き好きであることに変わりはないのかもしれませんが。●国際的に日本が対応を迫られる場面が多い昨今、日本を再考してみる必要があるように思えます。

(相沢りえ子)

## お願い

会費お振込に際しては、必ず**会員番号・会員名**のご記入をお願いいたします。

特に**会社・団体・学校等**からのお振込の場合、個人名不明のケースが多く、銀行・会社等への問合せに**大変な労力を**費やしております。経理部等へのご連絡、よろしくご協力くださいますようお願い申し上げます。

—学会事務局—

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

## オペレーションズ・リサーチ

平成3年3月号 第36巻 第3号 通巻363号

代表者 岡 久 雄

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
電話 03-3815-3351(代)FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 高森 寛

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円,郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ